

為替相場展望

株式会社 日本総合研究所
調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/research/>

目 次

ドル円相場	1
ユーロ相場	2
トピックス	3~6
ドル円相場・チャート分析	7
為替関連指標	8
資料	

本資料は2010年9月2日時点で利用可能な情報をもとに作成しております。

本資料に関するご照会は、下記宛てお願い致します。

欧米経済・市場動向グループ
牧田 (Tel: 03-3288-4244
Mail: makita.takeshi@jri.co.jp)

1. ドル・円相場見通し

当面は米国の景気減速懸念からドル安に振れやすい状況。介入も効果は限られ、80円台での推移が長期化。

(1) 8月の相場回顧

8月のドル円相場は、米国でISMや雇用統計など低調な指標が相次ぎ、二番底懸念が拡がるなか、ドル安が進行。10日の米FOMCで、景気判断の下方修正やMBSや政府機関債の償還資金の国債への再投資が打ち出されたことから、11日には84.72円まで円高ドル安が加速。その後、日銀によるレートチェックをきっかけにドル安に一旦歯止めがかかり、日銀による追加金融緩和期待や介入警戒感を背景に、85円台での小康状態が続いたものの、23日の菅首相・白川日銀総裁の電話会談で具体策が打ち出されなかったことから、再び円高ドル安が進行。米国での住宅関連指標の大幅悪化も加わり、24日には83.58円まで円高ドル安が加速。

(2) 今後の見通し

①政府・日銀の政策手詰まり感、②デフレ回避に向け、米FRBが追加金融緩和を辞さない姿勢を示していることから、見通しを小幅ドル安方向に修正。

当面**80円台半ばを中心とした一進一退が続く見込み**。

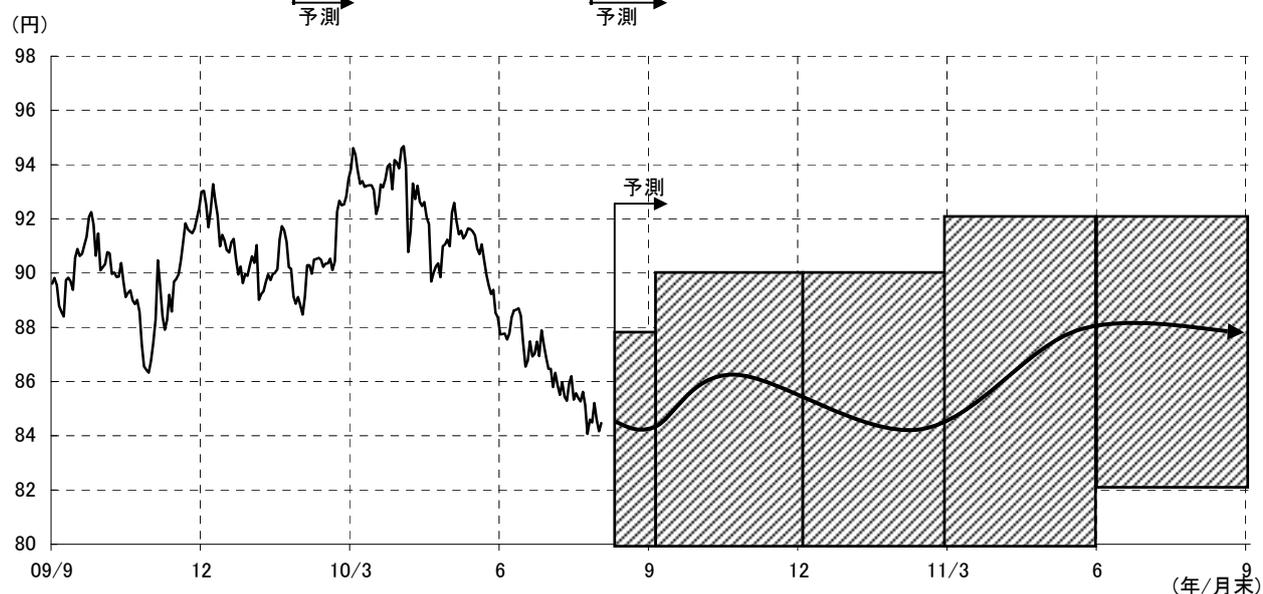
以下の要因を背景に、**当面ドル下振れリスクの強い状況が続く見通し**。

- ①米国では、景気の自律回復が困難ななか、景気対策の反動減が顕在化する2011年初にかけて景気減速懸念が強まりやすいこと
 - ②そうした状況下、FRBによる利上げは展望できず、状況次第では追加金融緩和策が打ち出される可能性があること
 - ③米国財政赤字の未曾有の拡大など、構造的なドル安要因に解消の目処が立たないこと
 - ④「5年間で輸出倍増」を掲げるなど、米国も事実上緩やかなドル安を志向していること
- 一方で、以下の要因から**一方的な円高ドル安進行も回避**される見込み。
- ①わが国経済においても、景気減速懸念が強まるなど、積極的な円買い材料は乏しいこと
 - ②日米ともに超低金利が続くなか、日米金利差縮小に起因する円高ドル安圧力は限られていること
 - ③加えて、円押し下げ効果は乏しいものの、一段の円高に対しては、日銀による追加金融緩和や円売り介入が予想されること、等

(円)

(円)

	2010年		2010年			2011年		
	8月	9月	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期
期中平均	85.47	85	92.0	86	85	85	86	87
(高値)	86.89	88	95.0	89	90	90	92	92
予測レンジ	~	~	~	~	~	~	~	~
(安値)	83.58	80	88.0	80	80	80	80	82



2. ユーロ相場見通し

短期的にはユーロが底堅く推移するものの、ユーロの信認低下・景気停滞長期化を背景に徐々にユーロ安基調に復帰へ

(1) 8月の相場回顧

＜対ドル＞ 米国での相次ぐ低調な景気指標、それに伴う追加金融緩和観測を受け、6日にかけ一時1.3334ドルまでユーロ高が進行。もっとも、10日のアイルランドでの公的資金投入をきっかけに欧州の財政赤字問題が再燃。緊縮財政を受けたギリシャ経済の大幅悪化もあり、16日にかけ1.2734ドルまでユーロ安が進行。その後も、出口戦略の2011年への先送りを示唆した20日の独連銀総裁発言もあり、24日には1.2588ドルまでユーロ安が進行。

＜対円＞ 月上旬は、概ね112～114円でもみ合いが続いたものの、①アイルランドでの財政赤字拡大懸念再燃、②中国での景気減速、それに伴う世界的な株安を受け、11日には109円台まで円高ユーロ安が進行。その後は、日銀の追加金融緩和期待等から109円台を維持していたものの、20日の独連銀総裁による低金利長期化示唆発言、新味にかけた23日の首相・日銀総裁電話会談、米指標悪化を受けた世界的な株価大幅下落、等を受けて円高ユーロ安が加速。24日には、2001年7月以来となる105.44円へ。

(2) 今後の見通し

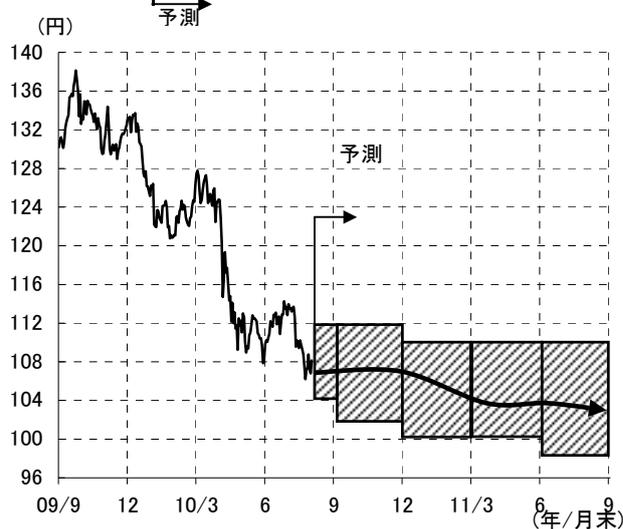
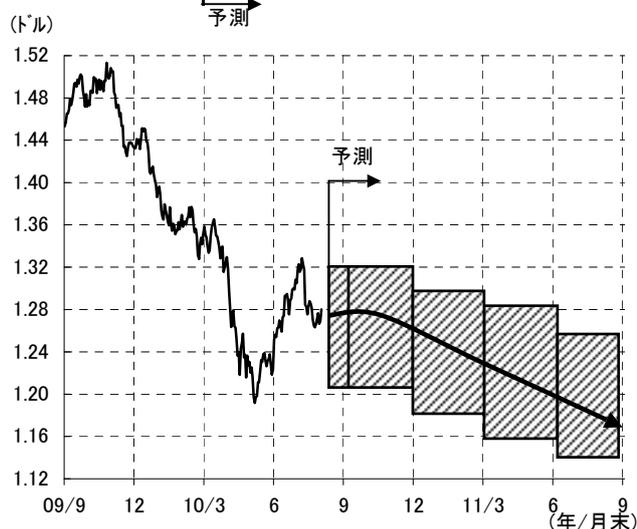
＜対ドル＞ 米国での景気減速懸念、それに伴う米FRBによる追加金融緩和観測等を背景に、**年内はユーロが底堅く推移する見込み**。もっとも、米国において景気対策の反動が一巡し、かつ、追加対策により米国景気の下振れリスク後退が期待される2011年春以降は、以下の要因を背景に、**徐々にユーロ下値模索の展開に復帰**する見通し。①域内格差の拡大等、共通通貨の構造問題露呈、それに伴うユーロに対する信認低下、②2011年入り以降ドイツやイタリアで緊縮財政が本格化するなか、ユーロ圏景気は日米対比大きく見劣りする公算大、③それに伴うECBによる低金利政策の長期化およびギリシャ国債引受等によるECBの信認低下、④景気下支えに向けた欧州各国によるユーロ安容認姿勢の強まり、等。

＜対円＞ 日銀による追加金融緩和観測や介入警戒感から、**短期的には現行水準での一進一退の展開**が続く見通し。もっとも、以下の要因を踏まえると、**円高ユーロ安基調は不変**。①域内財政格差の拡大等によるユーロの信認低下、②財政赤字圧縮による2011年入り後の欧州景気の下振れ観測、③それに伴うECBによる低金利政策の長期化観測、等。ただし、中長期的な成長期待が乏しい等積極的な円買い材料を欠くなか、**追加の円高ユーロ安進行余地も限られる見通し**。

(USD)

(円)

	2010年			2011年		
	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
平均	1.27	1.28	1.26	1.24	1.22	1.20
(高値)	1.37	1.34	1.32	1.30	1.28	1.26
レンジ	〃	〃	〃	〃	〃	〃
(安値)	1.19	1.22	1.20	1.18	1.16	1.14

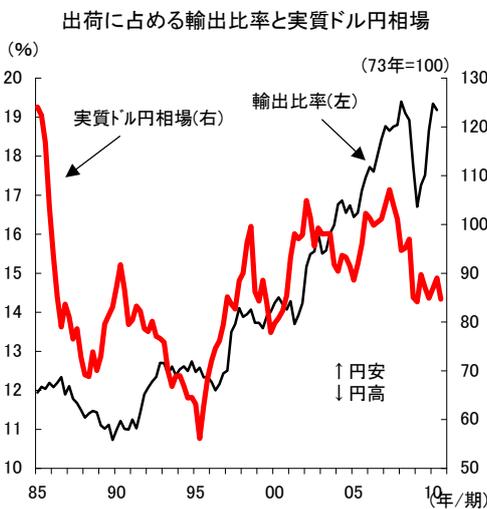
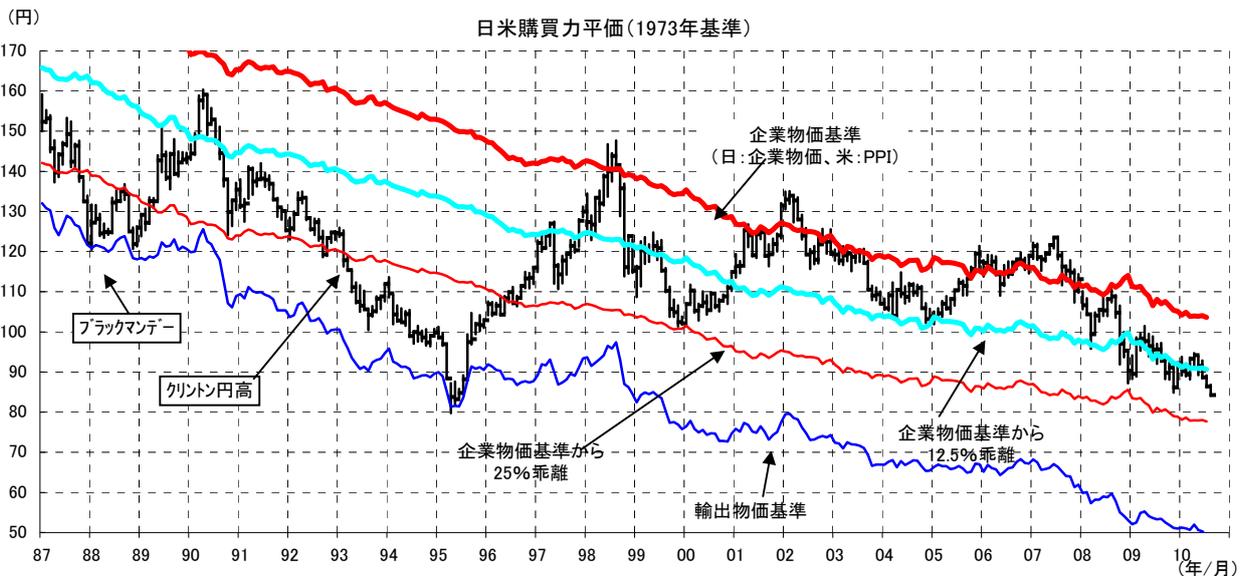


3. トピックス

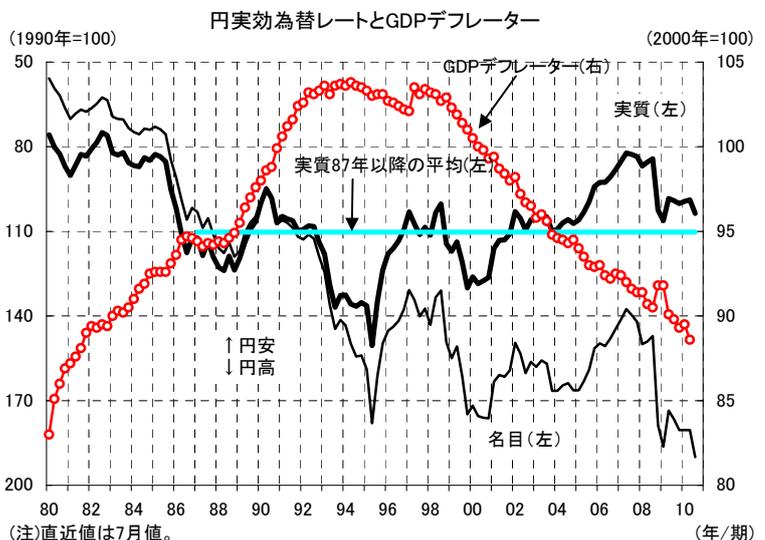
(1) 円高許容限度: 購買力平価の観点からは80円超の円高は製造業に打撃。放置すれば、円高・デフレの負の連鎖が強まる恐れ。

米国経済の先行き懸念が強まるなか、円高ドル安に歯止めがかからない。ドル円相場は、米FRBによる景気見直し下方修正や相次ぐ低調な景気指標を受け、24日には一時95年以来の83.58円まで円高ドル安が加速した。企業物価で計った日米購買力平価(1973年を基準)は、2010年7月時点で103円。足許では、同水準から19%円高に振れている。過去のドル円相場と日米購買力平価の関係をみると、2001年以降リーマンショックが勃発した2008年9月までは、購買力平価対比12.5%円高水準が円高上限となってきたが、それ以前は、総じて購買力平価対比25%円高水準が円高上限となってきた。確かに、87年のブラックマンデー時、93年のクリントン政権による円高政策採用後に輸出物価基準購買力平価まで円高が加速したことがあったが、①国内需要の停滞を受けた製造業出荷の海外依存の高まり、②韓国や中国等の競争力向上などを踏まえると、もはや25%円高水準に当たる80円を超える円高にわが国製造業が耐えられる保証はない。政府・日銀による断固たる姿勢が求められるよう。

一方、実質実効為替レートをみると、いまだ87年以降の平均を上回る円安水準にある。その点からみれば、一段の円高にも耐えられるとみることも可能ではある。ただし、実質ベースでの円安はわが国がデフレに陥っているからに他ならず、より実感に近い名目実効為替レートは過去最高値圏にある。実質円安を根拠に一段の円高を容認すれば、「円高」対応のための「賃下げ」→「デフレ」→結果としての「円高余力の高まり」→「円高」という「円高・デフレの負のスパイラル」からいつまで経っても抜け出せず、デフレを一段と深刻化させる結果となりかねない。



(注)実質ドル円相場は、企業物価基準購買力平価で実質化。

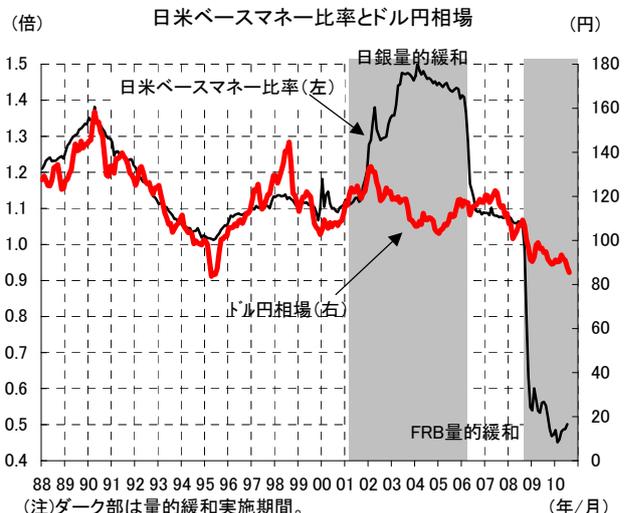
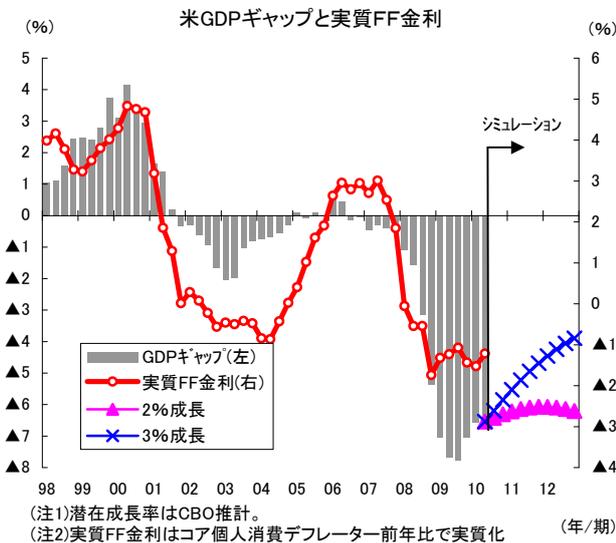
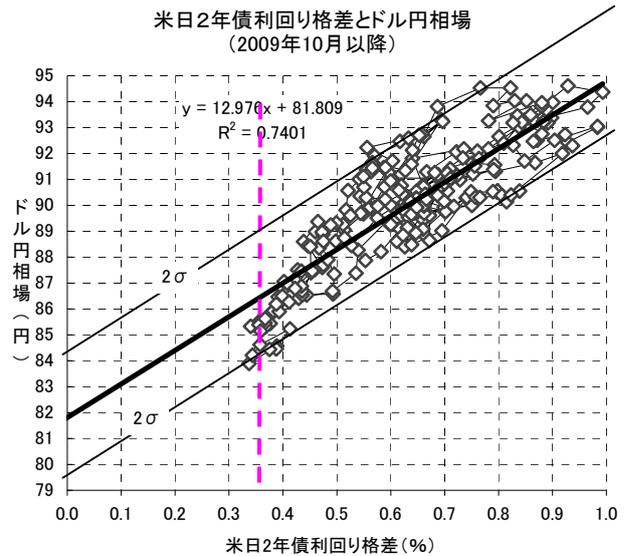
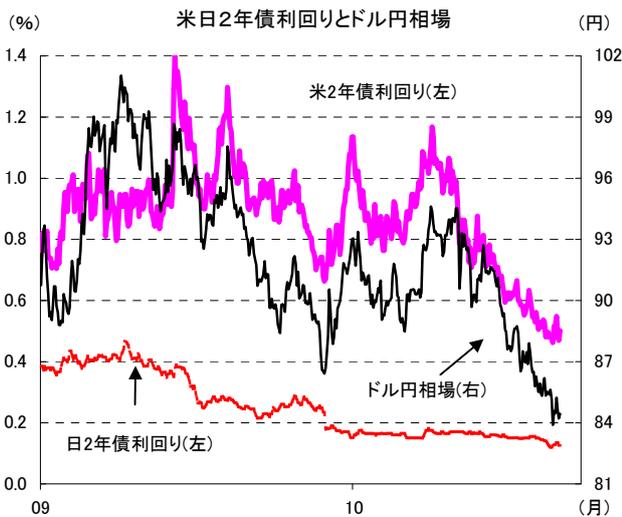


(注)直近値は7月値。

(2)日銀による円高対応策:利下げ・量的緩和も円押し下げ効果は限定的。米金利先高観が浮上するまで円高地合いが続く見込み。

とはいえ、わが国政府・日銀にとって、円高に対する有効な手立ても乏しいのが実情。足許での円高ドル安の主因は、景気の先行き不透明感を受けた米国金利の先高観の大幅な後退。FOMCでの景気見通し下方修正もあり、米2年債利回りは0.4%台にまで低下、米日2年債利回り格差は0.3%台前半にまで縮小している。金利差0.1%の縮小につき1.3円円高が進行するという2009年10月以降の米日2年債利回り格差とドル円相場との関係を踏まえると、日銀が追加の金融緩和を行ったとしても、ゼロ金利の制約下、円押し下げ効果はたかだか1円強に限られることになる。逆に、米2年債利回りが既に0.4%台に低下するなか、日米金利差が仮になくなくても、追加の円高進行余地は4円程度の80円前後に限られることになる。その意味では、金融政策よりも、金利差から離れて円高が加速した場合に、介入により断固阻止することが重要といえよう。いずれにせよ、日本で金利引き下げ余地に限られる以上、米国で金利先高観が再浮上しない限り、抜本的な円高是正は期待できない。大幅なGDPギャップを踏まえると、今後米国が3%成長を続けるという楽観的な展開を想定しても、金利先高感が強まるのは、2011年央以降とみられる。

一方、日銀には量的緩和という選択肢もある。ただし、日米ベースマネー比率（日本／米国）とドル円相場との関係を見ると、2002年までは有意な関係が認められたが、日銀の量的緩和実施以降、相関が薄れており、円高抑止に有用か定かではない。日銀、米FRBともに、量的緩和は導入当初こそ資金の目詰まり解消等を通じて、金融緩和効果を生むが、その後の中銀バランスシート拡大は、実体経済面への効果は認められず、結果として為替相場に与える影響も小さいのが実情。金融システム不安等を抱えていない日本が、量的緩和を実施しても円押し下げ効果は乏しいとみざるを得ない。黙ってみているわけにもいかないが、日銀としては、介入に対する非不胎化などの側面支援ぐらいしか試みる価値のある手立てが見当たらないのが実情である。



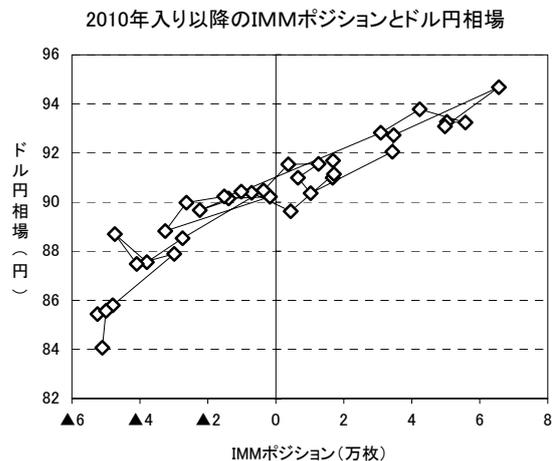
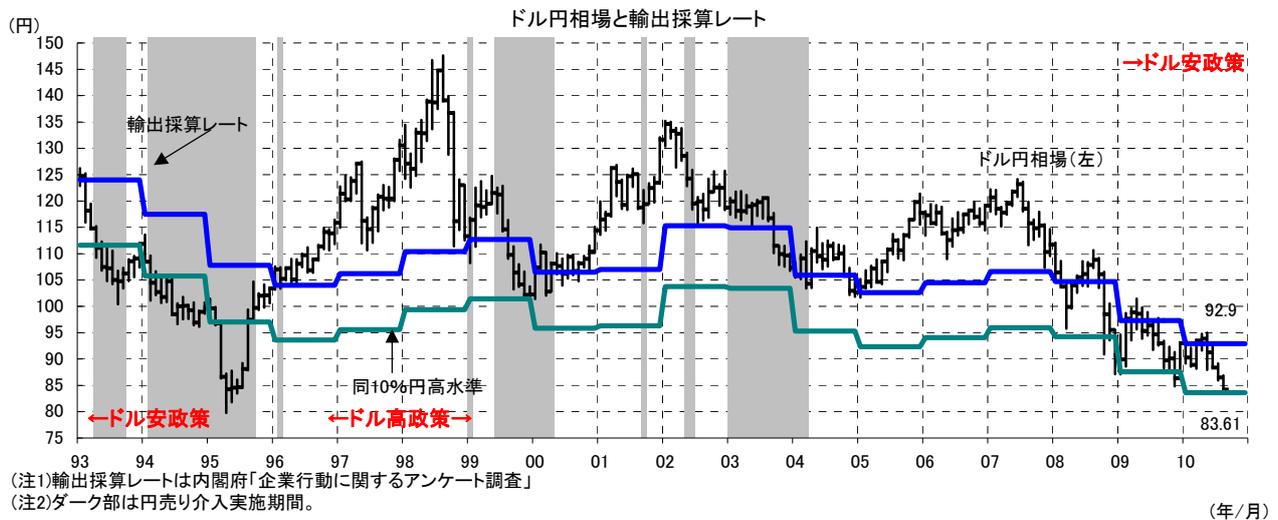
(注1)潜在成長率はCBO推計。
(注2)実質FF金利はコア個人消費デフレーター前年比で実質化

(3)介入ポイントと効果:80円前後での介入は米国も黙認の可能性。投機筋の円買い持ち解消を誘発すれば、90円前後までドル反発も。

結局、円高抑止には円売り介入しかない。しかし、米国が輸出倍増計画を掲げドル安を、ユーロ圏が南欧諸国による緊縮財政を側面支援するためユーロ安を容認するなか、効果の高い協調介入は期待できず、単独でのスミージング・オペレーション、あるいは、その成否はともかく、特定水準防衛介入にならざるを得ない。なお、04年3月を最後に介入が見送られてきた背景には、中国に人民元高を促すにあたり、日本が為替介入を頻発するわけにはいかないという事情もあった。わが国の介入実施は、人民元高抑制姿勢を再び強化している中国の為替政策を結果的に容認しているという誤ったメッセージを送ってしまうリスクも有している。

輸出採算レート（内閣府『企業行動に関するアンケート調査』算出）と円売り介入の関係をみると、米国がドル高政策を採用していた90年代半ばから2000年代前半は、輸出採算レートあるいはそれよりも円安水準で円売り介入が実施されていたが、米国が円高ドル安政策を進めていた90年代前半においても、輸出採算レート対比10%以上円高が進行する局面では、ほぼ例外なく円売り介入が実施されていた。オバマ現政権がドル安政策に舵を切っているとはいえ、90年代前半の経験則を踏まえると、輸出採算レート（92.9円）の10%円高水準である83円台半ばを超える水準で円売り介入を実施しても、アメリカからは特段強い批判は出ないかもしれない。ちなみに、日米関係が非常に良好であったブッシュ政権下では大幅な円安水準での介入が許容されたが、その前の99年の円売り介入に際しては、当時財務長官だったサマーズ現NEC委員長は、日本の120円前後での円売り介入を批判し、結果としてわが国通貨当局は108円を割り込むまで円売り介入の封印を余儀なくされた。当時のレートは、日米購買力平価をベースにすれば、それぞれ現在の91円、83円に相当する。

一方、単独介入の効果は限られようが、投機筋による円買い持ちが過去最大規模に膨らむなか、投機筋の円買いポジションの巻き戻しが誘発されれば、一時的とはいえ予想以上に円安に振れる可能性もある。IMM通貨先物における非商業部門円ポジションとドル円相場の2010年以降の関係をみると、ポジションがニュートラルになる円相場水準は90円前後。介入のほかに、円買い持ち解消を促す追加の材料があれば、同水準程度までドルが反発するかもしれない。



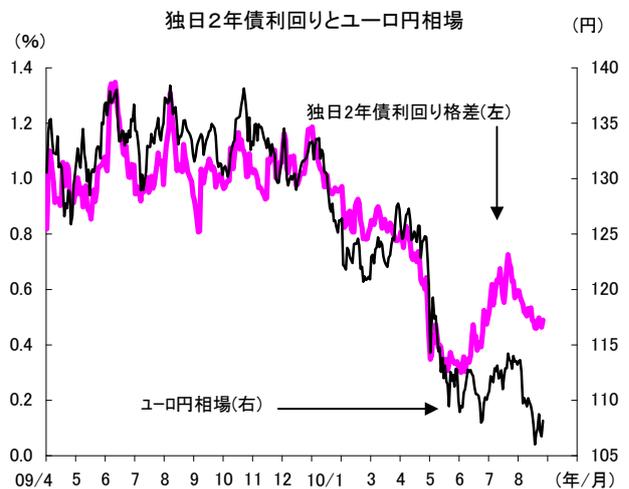
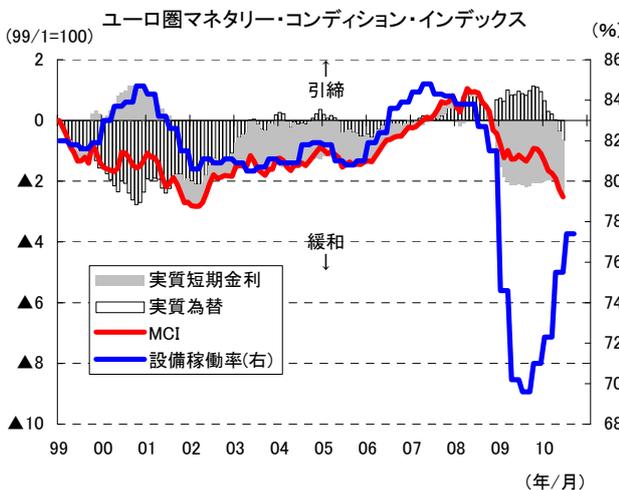
(4)ソブリンリスク再燃:ユーロ下振れを招来。経済実勢対比ECBの金融緩和も不十分で、ユーロは対ドル・対円ともに下振れリスク大。

アイルランドでの金融機関への公的資金投入、それを受けた財政赤字の大幅悪化、4～6月期ギリシャ実質GDPの前期比▲1.5%もの大幅な減少、等を受け、ユーロ圏でソブリンリスクが再浮上している。ユーロ圏主要国10年債利回りの対独格差は、8月入り後拡大に転じ、足許では5月初、6月末の既往最高水準に迫っている。こうした域内財政格差の拡大は、必要以上のユーロ下振れを招いている。

2009年7月以降の独米2年債利回り格差とユーロドル相場の関係を見ると、ギリシャ危機が深刻化した5月以降、金利差が示唆する水準を超えてユーロ安が加速。その後も、金利差に見合う水準以上にユーロが下振れる展開が常態化し、むしろ、域内長期金利の対独格差の拡大に伴い、その下振れ幅も拡大している。独米金利差に変化が生じなくても、域内財政格差に起因するユーロに対する信認低下に歯止めがかからなければ、ユーロジリ安基調からは抜け出せない見通し。

一方、米国での金融緩和観測により、7月以降、独米2年債利回り格差は独優位に転換している。もっとも、ユーロ圏経済は、金利高、それに伴うユーロ高を受け入れるだけの環境には至っていない。ユーロ圏マネタリー・コンディション・インデックスをみると、低金利長期化に、昨今のユーロ安効果が加わり、6月は▲2.52と実質ベースで2002年春以来の金融緩和状態となっている。もっとも、ユーロ圏経済が抱える大幅なGDPギャップと対比すれば、緩和度合いは十分とは言えず、更なる金融緩和あるいは一段のユーロ安が不可欠な状況にある。ウェーバー独連銀総裁も、20日、「ECBによる銀行への無制限の資金供給、年末以降も継続することが妥当」と発言し、出口戦略議論の2011年入り以降への先送りを示唆している。今後の景気動向次第では、むしろ追加金融緩和観測が浮上する可能性も否定できない。

ユーロ円相場においても、これまでの独日2年債利回り格差との関係を踏まえると、110円台半ばがリーズナブルな水準ではある。もっとも、①ユーロに対する信認低下、②ECBの低金利長期化を受け、独日2年債利回り格差は一段と縮小する可能性があること、等を踏まえると、110円割れの水準が常態化しても不思議で歯に環境になりつつある。



4. ドル円相場・チャート分析

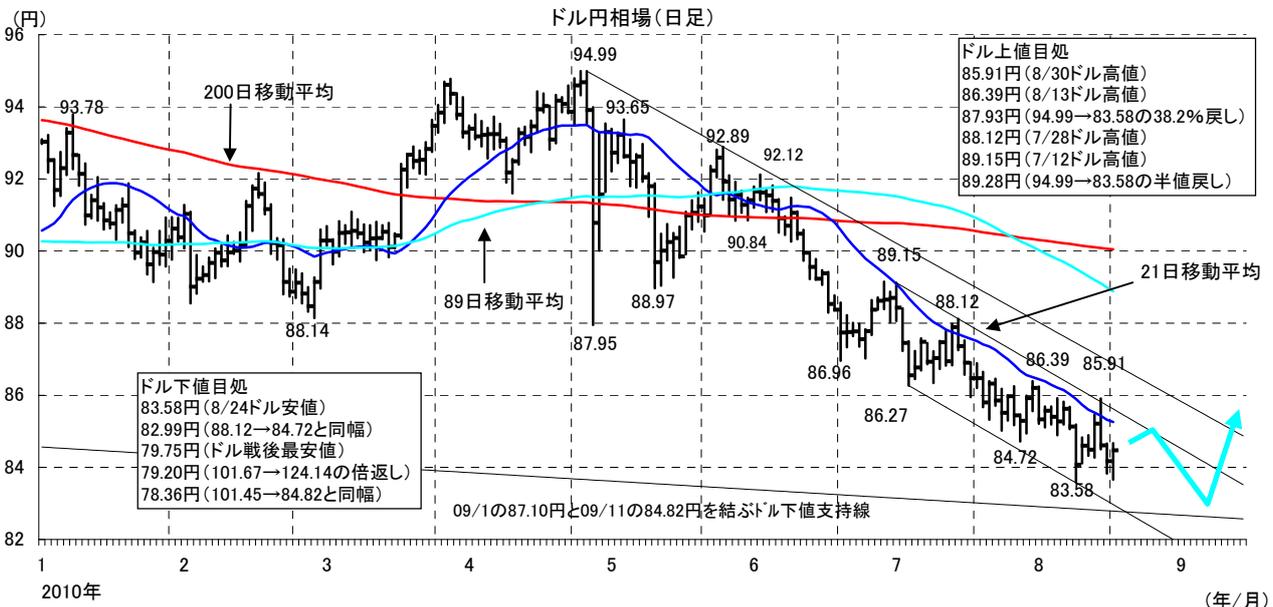
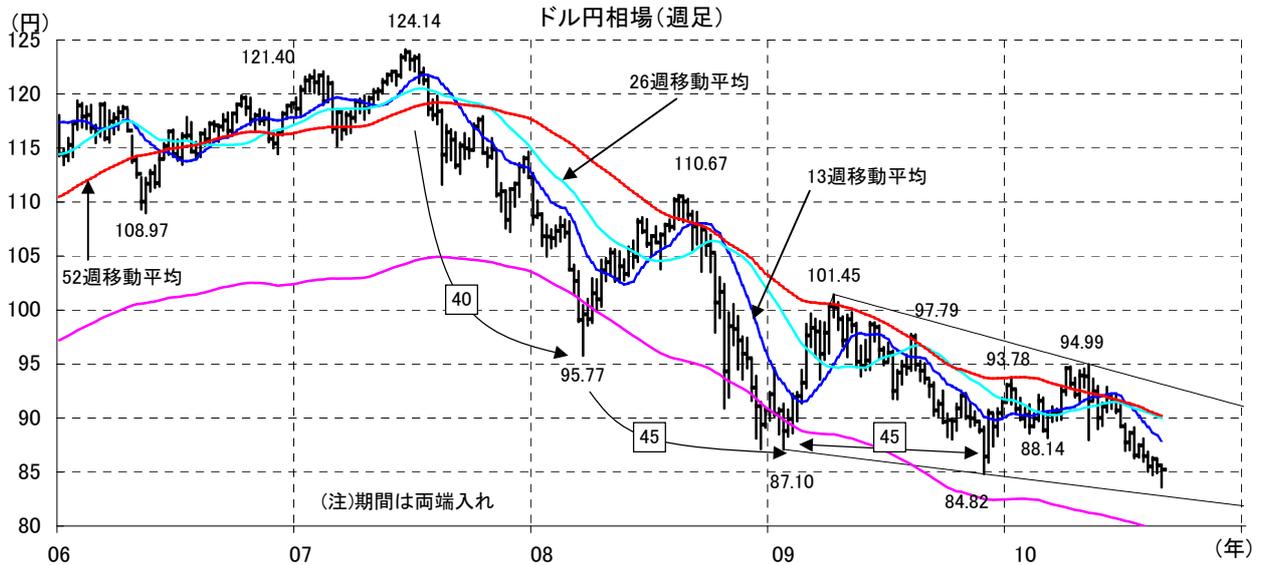
ドルジリ安基調から抜け出せず。82円台を下抜けると、戦後最安値更新も。一方、85円台後半を回復すれば、ドル安一服へ。

<週足チャート（9/2時点での見解）>

- ・ドル下値模索の展開が持続。足許82円台に位置する2009年来のドル下値支持線が止まり処ながら、同線を下抜ければ、戦後ドル最安値(79.75円)、52週線から12%円高乖離水準が位置する79円台半ばまでドル安が加速する可能性も。
- ・なお、ドル円相場では、2007年夏以降、40～45週毎に大きな節目が到来。8月末ですでに昨年11月末から40週を経過。45週目にあたる9月末までは、円一段高のリスク。
- ・一方、ドルが反発しても、87円台後半に位置する13週線がドル上値抑制に作用。これを上抜けても、26週線、52週線が控える90円前後ではドル頭打ち感が強まる見込み。

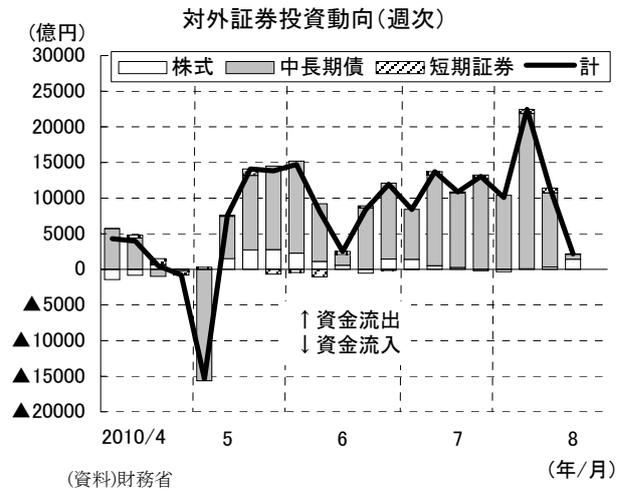
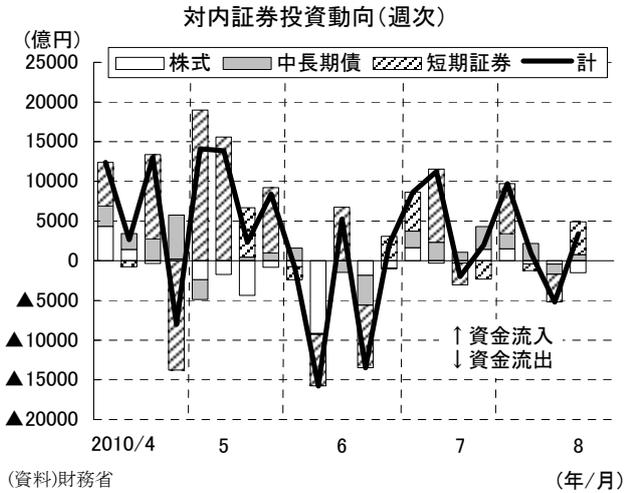
<日足チャート（9/2時点での見解）>

- ・7月中旬以降、下向きの平行チャネルを形成中。85円台後半に位置するチャネル上限を上抜けない限り、ドル下値模索の展開が続く見込み。当面の下値目標は、87.10円(09/1ドル安値)と84.82円(09/11ドル安値)を結ぶドル下値支持線が位置する82円台後半。
- ・チャネル上限を上抜ければ、ドル安局面一服へ。5月来ドル上値抵抗線が位置する86円台後半では一旦ドル頭打ち感が強まる可能性があるものの、足許88円台後半に位置する89日線までのドル反発は期待可能。



5. 為替関連指標

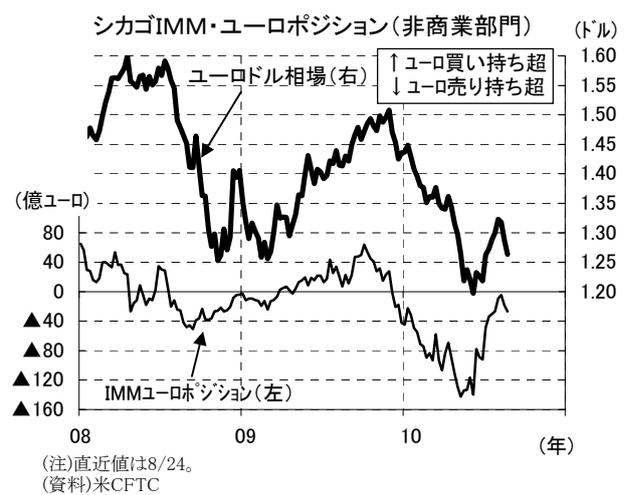
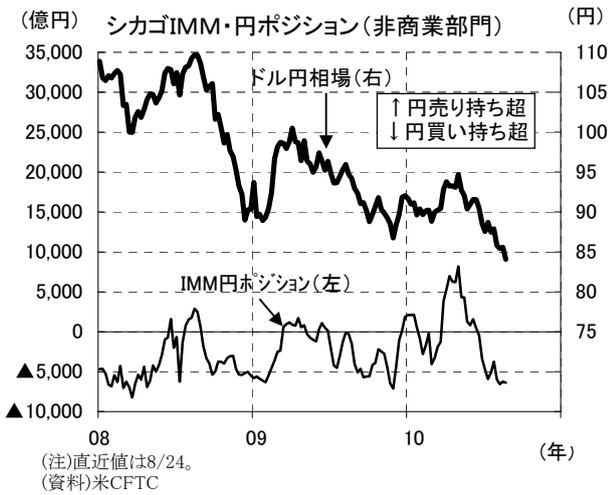
<対内対外証券投資動向>



対日株式投資は低水準が持続。円高圧力は限定的。

5月入り以降、高水準の対外債券投資が持続。円高圧力を緩和。

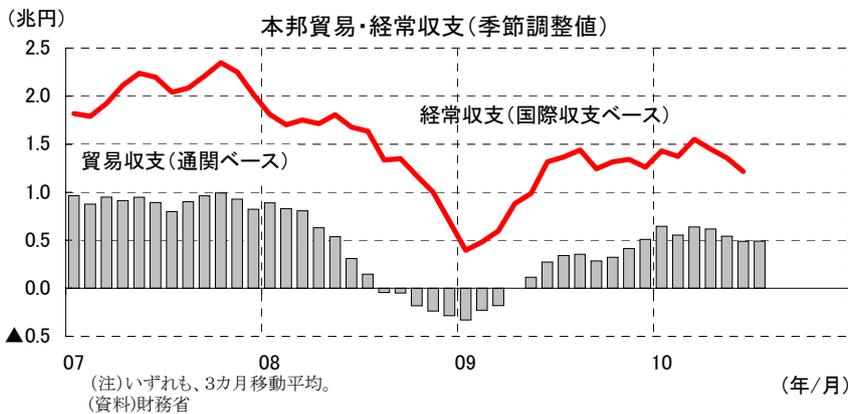
<シカゴ IMM (通貨先物) ポジション>



円買い持ちは、09年末以来の水準まで増加。追加の円高進行余地は限られ、円買い持ちは解消されれば、円反落へ。

ほぼニュートラルの状況下、ユーロ売り余力は増大しており、当面ユーロ安地合いが続く見込み。

<本邦貿易・経常収支>



7月の貿易収支は、米欧向け輸出の増加や輸入の減少を受け、黒字が3月以来の水準まで拡大。もともと、アジア向け輸出の伸び悩みが鮮明になるなか、既往円高効果も加わり、先行き貿易黒字の大幅な拡大は期待薄。

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		FF 0/N	1-03カ月	10年国債	N Yダウ 工業株	1-03カ月	10年国債
07/1	0.40	0.267	0.55	0.61	0.91	1.37	1.84	1.70	1.625	2.40	120.58	156.56	17286.32	5.26	5.35	4.75	12512.89	3.75	4.03
07/2	0.75	0.357	0.57	0.63	0.91	1.36	1.84	1.70	1.625	2.30	120.45	157.60	17741.23	5.26	5.35	4.72	12631.48	3.82	4.05
07/3	0.75	0.509	0.67	0.70	0.93	1.31	1.76	1.61	1.875	2.20	117.28	155.29	17128.37	5.26	5.34	4.56	12268.53	3.89	3.95
07/4	0.75	0.511	0.65	0.70	0.97	1.37	1.82	1.67	1.875	2.25	118.83	160.36	17469.81	5.24	5.34	4.68	12754.80	3.98	4.16
07/5	0.75	0.521	0.65	0.72	1.04	1.41	1.84	1.67	1.875	2.25	120.73	163.19	17595.14	5.25	5.34	4.74	13407.76	4.07	4.29
07/6	0.75	0.507	0.69	0.77	1.19	1.66	2.08	1.88	1.875	2.45	122.62	164.48	17942.18	5.25	5.35	5.10	13480.21	4.15	4.58
07/7	0.75	0.499	0.75	0.83	1.21	1.66	2.10	1.88	1.875	2.55	121.59	166.68	17974.77	5.26	5.35	4.99	13677.89	4.22	4.52
07/8	0.75	0.485	0.80	0.87	1.11	1.43	1.87	1.66	1.875	2.55	116.72	158.98	16460.95	5.04	5.52	4.68	13239.71	4.55	4.30
07/9	0.75	0.510	0.84	0.90	1.08	1.36	1.79	1.60	1.875	2.25	115.02	159.64	16235.39	4.97	5.53	4.51	13557.69	4.74	4.24
07/10	0.75	0.506	0.84	0.91	1.10	1.37	1.83	1.65	1.875	2.45	115.74	164.74	16903.36	4.75	5.15	4.51	13901.28	4.68	4.29
07/11	0.75	0.500	0.85	0.91	1.02	1.27	1.71	1.51	1.875	2.20	111.21	163.28	15543.76	4.50	5.02	4.14	13200.58	4.64	4.10
07/12	0.75	0.497	0.86	0.91	0.97	1.24	1.70	1.53	1.875	2.30	112.34	163.50	15545.07	4.22	5.17	4.09	13406.99	4.85	4.24
08/1	0.75	0.502	0.85	0.89	0.83	1.09	1.60	1.42	1.875	2.10	107.66	158.14	13731.31	3.93	3.93	3.72	12538.12	4.48	4.05
08/2	0.75	0.504	0.85	0.88	0.89	0.96	1.64	1.44	1.875	2.15	107.16	158.18	13547.84	2.97	3.12	3.73	12419.57	4.36	3.96
08/3	0.75	0.511	0.86	0.89	0.92	1.08	1.51	1.30	1.875	2.10	100.79	156.28	12602.93	2.60	2.85	3.48	12193.88	4.60	3.81
08/4	0.75	0.506	0.84	0.88	0.98	1.16	1.59	1.41	1.875	2.10	102.49	161.53	13357.70	2.26	3.02	3.64	12656.63	4.78	4.05
08/5	0.75	0.505	0.84	0.88	1.18	1.47	1.87	1.67	1.875	2.40	104.14	162.05	13995.33	1.99	2.84	3.87	12812.48	4.86	4.20
08/6	0.75	0.509	0.84	0.89	1.30	1.62	1.99	1.75	1.875	2.45	106.90	166.23	14084.60	2.00	2.95	4.08	12056.67	4.94	4.55
08/7	0.75	0.503	0.85	0.90	1.18	1.44	1.82	1.60	1.875	2.40	106.81	168.35	13168.91	2.02	3.00	3.97	11322.38	4.96	4.50
08/8	0.75	0.504	0.85	0.89	1.01	1.26	1.66	1.45	1.875	2.25	109.28	163.75	12989.35	1.99	3.00	3.88	11530.75	4.96	4.22
08/9	0.75	0.495	0.85	0.90	1.05	1.31	1.69	1.48	1.875	2.30	106.75	153.25	12123.53	1.86	3.95	3.68	11114.08	5.02	4.10
08/10	0.50	0.487	0.88	0.91	1.02	1.27	1.55	1.50	1.875	2.35	100.33	133.49	9117.03	1.01	5.31	3.78	9176.71	5.11	3.90
08/11	0.50	0.301	0.82	0.86	0.89	1.13	1.48	1.46	1.675	2.40	96.81	123.25	8531.45	0.39	3.11	3.46	8614.55	4.23	3.57
08/12	0.30	0.211	0.86	0.88	0.85	1.02	1.32	1.31	1.675	2.40	91.28	122.79	8463.62	0.17	2.47	2.40	8595.56	3.29	3.06
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.45	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.45	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.43	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.40	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.40	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.40	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.49	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.61	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.61	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.51	2.68	10350.40	0.83	2.37

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。

内外政治・経済トピックスと今後のスケジュール

		国内	海外	
8	2		米7月ISM製造業景況指数、55.5と09/12以来の水準まで低下	
	4	10年債利回り、2003年8月以来の1%割れ	米7月ISM非製造業景況指数、54.3と4ヵ月振りの上昇	
	5		英中銀、政策金利・資産買入枠ともに据え置き。ECB、政策金利据え置き。	
	6	臨時国会閉会	米7月非農業雇用者数、前月差▲131千人。失業率は9.5%	
	9	6月国際収支、7月マネーストック、同景気ウォッチャー調査		
	10	野田財務相「足許の為替の動きは偏っている」 日銀、政策金利据え置き 白川日銀総裁「為替の水準で直ちに政策が決まってくるということではない」 月例経済報告、「自律的回復への基盤が整いつつある」と基調判断を据え置き	米4～6月期労働生産性、前期比年率▲0.9%と6四半期振りの低下 米FOMC、政策金利据え置き。FRBが保有するエージェンシー債・MBS償還分を国債に再投資することで、バランスシート規模を維持。声明「景気・雇用の回復ペースが減速」「経済の回復ペースは短期的に予想された以上に一段と緩やかになる公算」	
	11	4～6月期機械受注(船・電除民需)、前期比+0.3%	米6月貿易赤字、▲499億ドルと08/10以来の高水準	
	12	日銀、外為市場でレートチェックを実施		
	13		ユーロ圏4～6月期実質GDP、前期比+1.0%と06年4～6月期以来の高い伸び 独4～6月期実質GDP前期比+2.2%と90年の東西統一後最大の伸び 米7月小売売上高、前月比+0.4%と3ヵ月振りのプラス	
	16	4～6月期実質GDP(一次速報値)、前期比年率+0.4%に鈍化。名目は同▲3.7%。		
	19		米8月フィラデルフィア連銀景況指数、▲7.7と09/7以来1年1ヵ月振りのマイナス	
	20		ヴェバー独連銀総裁「銀行への無制限資金供給、年末以降も継続が妥当」	
	23	菅首相・白川日銀総裁電話会談実施		
	24		S&P、アイルランド長期ソブリン格付けを「AA」から「AA-」に引き下げ 米7月中古住宅販売、年率38.3万戸と99年の統計開始以来最低	
	25	野田財務相「必要などときには適切な対応をとる」	米7月新築住宅販売、年率27.6万戸と過去最低を更新	
	27	7月失業率、5.2%と6ヵ月振りの低下 菅首相「日銀総裁が帰国次第官邸で面会」	米4～6月期実質GDP(一次改定値)、前期比年率+1.6%に下方改定 バーナンキ米FRB議長「見通し悪化等、必要に応じて追加刺激策を実施する用意」	
	30	日銀臨時金融政策決定会合、10兆円規模・期間6ヵ月の新型オペ追加を決定 日銀声明「わが国の経済・物価情勢の下振れリスクにより注意していくことが必要」 菅首相・白川日銀総裁会談。政府、経済対策基本方針を発表		
	31	7月鉱工業生産、前月比+0.3%。予測指数:8月+1.6%、9月+0.2%	米8月FOMC議事録「見通しが著しく弱まった場合に追加刺激策を検討する必要」	
	9	1	民主党代表選挙告示:菅首相、小沢前幹事長が出馬。	米8月ISM製造業景況指数、56.3と4ヵ月振りの上昇
		2		ユーロ圏4～6月期実質GDP(改定値)、ECB理事会 米4～6月期労働生産性(改定値)、7月製造業受注
		3	4～6月期法人企業統計	米8月雇用統計、同ISM非製造業景況指数
		6		米レーババーデー
		7	日銀決定会合(6日～)、日銀総裁定例記者会見、7月景気動向指数(速報)	
		8	7月国際収支、同機械受注、8月マネーストック、同景気ウォッチャー調査	米ページブック
		9	4～6月期景気予測調査、8月消費者態度指数	英中銀金融政策委員会(8日～)。米7月貿易収支
		10	4～6月期実質GDP(二次速報値)、日銀政策決定会合議事要旨(8/9～10) 8月国内企業物価	中国8月貿易収支
		13		中国8月消費者物価・小売売上高・鉱工業生産・固定資産投資
		14	民主党代表選挙	米8月小売売上高
		15		米9月NY連銀製造業景況指数、8月鉱工業生産・設備稼働率
		16	7月第三次産業活動指数	米8月生産者物価、4～6月期経常収支、7月証券投資 米9月フィラデルフィア連銀景況指数
		17		米8月消費者物価、9月シカゴ大学消費者信頼感(速報)
20		敬老の日		
21			米8月住宅着工件数、FOMC	
23		秋分の日	米8月CB景気先行指数、同中古住宅販売	
24			独9月ifo景況指数。米8月耐久財受注、新築住宅販売	
27		8月通関貿易収支、同企業向けサービス価格		
28			米7月S&P/ケース・シラー住宅価格指数、9月CB消費者信頼感指数	
29		9月日銀短観		
30	8月鉱工業生産、住宅着工	米4～6月期実質GDP(二次改定値)、9月シカゴ購買部協会景気指数		
10	1	9月東京都区部消費者物価・8月全国消費者物価 8月労働力調査・有効求人倍率、家計調査	中国9月製造業PMI指数。米9月ISM製造業景況指数 米8月個人所得・個人消費、9月シカゴ大学消費者信頼感(確報)	